

相模原市立公文書館第18回企画展

「『軍都計画』と相模原」

第3弾

～相模原陸軍病院（米陸軍医療センター）の変遷～

展示資料目録



令和3年3月発行

相模原市立公文書館

目 次

1	第18回企画展の展示内容について	1
2	展示資料の利用について	1
3	展示概要	2・3
4	展示資料目録	4～8
5	参考資料	9

<開催期間・場所>

開催期間 令和3年3月23日(火)～5月28日(金)

開催時間 午前8時45分～午後5時

休館日は 3月29日(月)、4月以降は土曜日、日曜日、祝日です。
(4月7日(水)、8日(木)は資料点検のため休館です)

公文書館トーク・トーク(展示解説)

・令和3年3月27日(土)、4月14日(水)・24日(土)、5月15日(土)

毎回 午後2時～3時 希望者は直接会場へ

開催場所 相模原市立公文書館



〒252-5192 相模原市緑区久保沢1丁目3番1号

城山総合事務所第2別館3階

電話 042-783-8053



1 第18回企画展の展示内容について

第11回「『軍都計画』と相模原」、第15回「『軍都計画』と相模原 その後」に続き、「軍都計画と相模原」の第3弾として、相模原陸軍病院（のち米陸軍医療センター）を中心に、返還とその後の相模大野周辺の変遷を探ります。また、陸軍通信学校のその後についても触れます。それらがどのように移り変わっていったかを歴史的公文書等で現していきます。

現在、相模原市の南の玄関口となっている『相模大野』。「県立相模大野高校（のち県立相模原中等学校）」、「ロビーシティ相模大野五番街」、「相模大野立体駐車場」、「相模大野中央公園」、「グリーンホール相模大野（複合文化施設）」、「外務省研修所」、「国家公務員宿舎」、そして「伊勢丹相模原店（（都市型百貨店）1990（平成2）年9月開業、2019（令和元）年9月閉店）」などとなっていますが、戦前は「相模原陸軍病院」がありました。終戦後に接收され、「米陸軍医療センター」となり、1981（昭和56）年4月1日に日本に返還となりました。

なお、詳細につきましては、「3 展示概要」をご覧ください。

2 展示資料の利用について

展示している資料のうち、展示資料目録の「出典等」の項目に『歴史的公文書』と記載されているものは、展示期間終了後、公文書館で所定の手続きを行っていただきますと、一部を除きご利用いただくことが可能です。

また、『行政資料』と記載されているものにつきましては、当館や行政資料コーナーで展示期間中でも閲覧することができますので、お申し出ください。

なお、「出典等」の項目に国立公文書館所蔵（『特定歴史公文書』と言います。）防衛省防衛研究所所蔵、神奈川県立公文書館所蔵、相模原市立博物館所蔵と記載されている資料のご利用につきましては、各館へ直接お問い合わせください。

3 展示概要

相模原陸軍病院（米陸軍医療センター）の返還

1937（昭和12）年9月、陸軍士官学校の転営をはじめ、翌1938（昭和13）年3月には臨時東京第三陸軍病院（のち国立相模原病院（その後独立行政法人国立病院機構相模原病院））、8月には陸軍造兵廠東京工廠相模兵器製造所（のち相模陸軍造兵廠）、10月には陸軍工科学校（のち陸軍兵器学校）が建設され、1939（昭和14）年1月には陸軍電信第一連隊（のち米陸軍相模原住宅地区）、5月には陸軍通信学校、1940（昭和15）年3月には陸軍原町田陸軍病院（のち相模原陸軍病院）と、相模原台地一帯には、東京から続々と軍事施設や軍需工場の移転が進み、1942（昭和17）年の陸軍機甲整備学校（のち米軍キャンプ淵野辺）まで、8つの陸軍施設が建設された。その後、終戦により、陸軍施設の多くが米軍に接收された。

そのうち、相模原陸軍病院は1945（昭和20）年9月20日、調達要求書第4386号により接收され、同月25日に米陸軍第128衛戍病院（のち米陸軍第141衛戍病院）が開設される。1958（昭和33年）1月15日には、在日米陸軍の病院を統括し、在日米陸軍医療センター（FAC3098）（以下「医療センター」という。）となる。

医療センターは米陸軍の軍人、軍属とその家族等のための総合病院として診療業務のほか、予防医学の研究等が行われ、ベトナム戦争当時は約700床のベットが満床で、横田基地から昼夜を問わずヘリコプターで傷病兵が運ばれてきたという。そして、ベトナム戦争終結により、1973（昭和48）年1月以降は機能が縮小されていった。

一方、本市にとっては、1958（昭和33）年8月の首都圏整備法の指定（市街地開発区域第1号）を契機に人口が急増し、市の南の玄関口である小田急相模大野駅（旧通信学校駅）周辺の都市開発に大きな支障が生じていた。

1958（昭和33）年9月には相模原市議会に基地対策特別委員会が設置され、基地の現状把握に努めていた。1968（昭和43）年9月には地元の大野地区自治会連合会と相模大野商工連合会が、まちづくりの致命的な障害となっていると、早期返還の促進を市に陳情。これを受け、市は県知事あてに医療センターの全面返還を要望。かつてのキャンプ淵野辺における電波障害制限地区指定問題に端を発して組織された、相模原市電波障害制限地区指定反対実行委員会が発展的に解消され、1971（昭和46）年6月には相模原市米軍基地返還促進市民協議会（以下「市民協」という。）が結成された。市民協ともども粘り強い全面返還運動を展開。1973（昭和48）年1月の第14回日米安全保障協議委員会において医療センターに関する移転の協議を継続することが決定され、1977（昭和52）年8月には、医療センターの返還に合意する旨が覚書の形で日米合同委員会施設委員会に提示され、同年12月15日の日米合同委員会において診療部門、病院部

門の移設完了後返還することについて合意された。そして、1981（昭和56）年4月1日に医療センターの全面返還が実現した。

相模大野駅周辺整備

相模大野駅周辺のまちづくりは、1972（昭和47）年に相模大野駅周辺土地区画整理事業に着手し、1983（昭和58）年3月には相模原市商業振興ビジョンで相模大野地区を中心商業地として位置づけられる（中心商業地形成事業）と、医療センターの返還によりまちづくりの拠点として商業・緑・文化の開発テーマのもと街と一体となるよう整備が進められました。

特に、医療センター返還跡地の利用については、相模原市米軍提供施設跡地利用対策審議会に諮問しその答申を受け、小田急相模大野駅を拠点とした広域的なまちづくり計画を踏まえ、神奈川県と連携し、国との協議を重ね、1983（昭和58）年12月15日の国有財産関東地方審議会において跡地利用が決定しました。

そして、地元利用として、複合文化施設である「グリーンホール相模大野」、立体駐車場、自転車駐車場、「相模大野中央公園」、そして「県立相模大野高校（のちの県立相模原中学校）」、国利用分として、集合住宅「ロビーシティ相模大野五番街」ができ、都市型百貨店「伊勢丹相模原店」が1990（平成2）年9月開業（2019（令和元）年9月閉店）。また、留保地には、外務省研修所、大蔵省公務員住宅が整備されました。

陸軍通信学校のその後

一方、陸軍電信学校は、通信に従事する幹部候補生、下士官候補生を教育する学校で、1925（大正14）年に設立されましたが、陸軍士官学校の練兵場を利用するため、1939（昭和14）年5月20日に東京杉並から相模原に移転してきました。

終戦後その跡地には、1945（昭和20）年4月14日に戦災のため校舎を焼失した、帝国女子専門学校（のち相模女子大学）が東京小石川から1946（昭和21）年4月に移転した（当初は1年間の貸与）ほか、相模原町立大野第三国民学校仮教場（のち市立谷口台小学校）、県立相模台工業高校（のち県立相模原総合産業高校）などに転用されている。現在、相模女子大学構内には陸軍通信学校表門（同大学正門）のほか、将校集会所（同大学茜館）及び庭園、高さ18メートルの高架水槽（鉄筋コンクリート造の打ち放しの配水塔で、今でも現役で使用されている）、陸軍のシンボルマークである五芒星の形が入ったマンホールなど、約10の施設が残っており、市立谷口台小学校には、倉庫があり、軽油庫らしいが鳩の餌を入れていたとも言い伝えられている（陸軍通信学校には鳩部が設置されていた）。

4 展示資料目録

相模原陸軍病院(米陸軍医療センター)の返還

No.	資料名	作成年	原本等	展示物
1	連合国軍(米軍)部隊の相模原進駐状況	1945(昭和20)年9月	パネル	相模原市史「現代通史編」 [行政資料]
2	米陸軍医療センター空撮	1950(昭和25)年代	複写 (写真)	相模原市史「現代図録編」 [行政資料]
3	米陸軍医療センター返還後の空撮	1991(平成3)年9月	複写 (写真)	相模原市立博物館所蔵 [行政資料]
4	在日米陸軍医療センター正門	1979(昭和54)年4月	複写 (写真)	相模原市史「現代図録編」 [行政資料]
5	電信第一聯隊、原町田陸軍病院及び陸軍工科学校敷地買収ノ件	1937(昭和12)年7月	複写	大日記・陸軍省・大日記乙輯 S12-2-34 「(防衛省防衛研究所所蔵)」、 (特定歴史公文書)
6	陸軍大臣請議陸軍病院令中改正ノ件 (「及び立川」ヲ「立川、原町田及び 柏」ニ改ム)	1938(昭和13)年9月	複写	公文類聚第63編巻八 (国立公文書館所蔵) (特定歴史公文書)
7	原町田陸軍病院ノ移転ニ関スル件	1938(昭和13)年8月	複写	大日記・陸軍省・密大日記 S13-1-8 (防衛省防衛研究所所蔵) (特定歴史公文書)
8	原町田陸軍病院拡張敷地買収ノ件	1938(昭和13)年8月	複写	大日記・陸軍省・大日記乙輯 S14-2-30 (防衛省防衛研究所所蔵) (特定歴史公文書)

No.	資料名	作成年	原本等	展示物
9	原町田陸軍病院新設工事実施ノ件	1938(昭和13) 年12月	複写	大日記・陸軍省・大日記乙輯 S13-2-35 (防衛省防衛研究所所蔵) (特定歴史公文書)
10	相模原陸軍病院二臨時看護婦採用ノ件	1940(昭和15) 年10月	複写	大日記・陸軍省・陸支普大日記 S15-26-247 「(防衛省防衛研究所所蔵)」 (特定歴史公文書)
11	元相模原陸軍病院内一部敷地解放に関する件 (大野農業会からの陳情 手書き地図あり)	1946(昭和21) 年9月	原本	昭和21年度軍用地関係書類 (神奈川県立公文書館所蔵) (歴史的公文書)
12	米陸軍医療センター早期返還の促進についての陳情 (大野南地区自治会連合会、相模大野商工連合会から)	1968(昭和43) 年9月	原本	「昭和43年度米軍提供施設の跡地利用書類」(駐留軍施設転換促進書類)(相模原市立公文書館蔵) (歴史的公文書)
13	在日米陸軍医療本部の全面返還について(要望)	1968(昭和43) 年9月	原本	「昭和43年度米軍提供施設の跡地利用書類」(駐留軍施設転換促進書類)(相模原市立公文書館蔵)(歴史的公文書)
14	医療センター返還促進市民の集い (パンフレット)	1973(昭和48) 年11月	原本 複写	「昭和49年度～50年度米軍提供施設の跡地利用書類」(米軍提供施設跡地利用対策審議会)(相模原市立公文書館蔵)(歴史的公文書)
15	米軍医療センターの跡地利用について(審議会からの答申)	1975(昭和50) 年11月	原本	「昭和49年度～50年度米軍提供施設の跡地利用書類」(米軍提供施設跡地利用対策審議会) (相模原市立公文書館蔵) (歴史的公文書)
16	医療センターの移設計画について	1977(昭和52) 年8月	原本	「昭和55年度米軍提供施設返還等書類」医療センター全面返還等書類 (相模原市立公文書館所蔵) (歴史的公文書)
17	米陸軍医療センター返還について (横浜防衛施設局長から)	1977(昭和52) 年10月	原本	「昭和55年度米軍提供施設返還等書類」医療センター全面返還等書類 (相模原市立公文書館所蔵) (歴史的公文書)

No.	資料名	作成年	原本等	展示物
18	FAC3098 米陸軍医療センター返還について(横浜防衛施設局長から)	1981(昭和56)年3月	原本	「昭和55年度米軍提供施設返還等書類」医療センター全面返還等書類(相模原市立公文書館所蔵)(歴史的公文書)
19	医療センター跡地の管理について(要望) (横浜財務部長あて)	1981(昭和56)年8月	原本	昭和56年度 米陸軍医療センター(神奈川県立公文書館所蔵)(歴史的公文書)
20	新興都市土地区画整理事業処理二関スル件 (相模原は23地区中全国最大規模)	1946(昭和21)年3月	原本	「昭和23年相模原関係」(神奈川県立公文書館蔵)(歴史的公文書)
21	相模原都市建設区画整理事業に関する『陳情書』(事業の継続を陳情)	1946(昭和21)年10月	原本	「昭和25年相模原土地区画整理農地関係陳情書」(神奈川県立公文書館蔵)(歴史的公文書)
22	相模原都市建設区画整理事業経過報告 神奈川県(一部抜粋)	1950(昭和25)年4月	複写	建設省決裁文書 都市計画及び都市計画事業の決定書類等 昭和33年、34年 神奈川県 (国立公文書館所蔵) (特定歴史公文書)
23	市街地開発区域候補地の選定について	1956(昭和31)年	原本	「昭和32年首都圏市街地開発区域関係綴」(神奈川県立公文書館蔵)(歴史的公文書)
24	市街地開発区域候補地 相模原地区選定理由	1956(昭和31)年8月	複写	「昭和32年首都圏市街地開発区域関係綴」(神奈川県立公文書館蔵)(歴史的公文書)
25	首都圏整備法による相模原市の将来	1958(昭和33)年2月	パネル	「市報相模原」昭和33年2月25日号 (広報相模原縮刷版) [行政資料]
26	首都圏市街地開発区域整備法による相模原・町田地区整備方針	1958(昭和33)年12月	原本	「昭和33年度首都圏関係綴」(神奈川県立公文書館蔵)(歴史的公文書)

相模大野駅周辺整備

No.	資料名	作成年	原本等	展示物
27	医療センター跡地及び周辺整備基本計画調査 －概要版－	1985(昭和60) 年3月	原本	医療センター跡地及び周辺整備基本計画調査－概要版－(相模原市立図書館所蔵)[行政資料]
28	医療センター跡地及び周辺整備基本計画調査 調査区域図	1985(昭和60) 年3月	複写	医療センター跡地及び周辺整備基本計画調査－概要版－(相模原市立図書館所蔵)[行政資料]
29	医療センター跡地及び周辺整備基本計画調査 計画案1(オーバブリッジ案)配置図	1985(昭和60) 年3月	複写	医療センター跡地及び周辺整備基本計画調査－概要版－(相模原市立図書館所蔵)[行政資料]
30	ロビーシティ相模大野 『相模大野駅周辺街づくり計画』	1989(平成元) 年	原本	相模原市『相模大野駅周辺街づくり計画』(平成元年度作成より抜粋)(相模原市立公文書館所蔵) [行政資料]

陸軍通信学校等のその後

No.	資料名	作成年	原本等	展示物
31	農地法施行規則第46条による用途外借り受けについて(県立相模台工業高校用地)	1963(昭和38) 年5月	原本	昭和40年度農地法80条(4冊の3) (神奈川県立公文書館所蔵) (歴史的公文書)
32	陸軍通信学校移転新築工事実施ノ件	1938(昭和13) 年4月	複写	大日記・陸軍省・大日記乙輯 S13-2-35 (防衛省防衛研究所所蔵) (特定歴史公文書)
33	陸軍通信学校下士官候補者隊ノ移転ニ関スル件	1938(昭和13) 年8月	複写	大日記・陸軍省・密大日記 S13-1-8 (防衛省防衛研究所所蔵) (特定歴史公文書)

No.	資料名	作成年	原本等	展示物
34	陸軍大臣請議陸軍通信学校令改正ノ件	1938(昭和13)年7月	複写	公文類聚第62編巻八 (国立公文書館所蔵) (特定歴史公文書)
35	陸軍通信学校仮鳩舎新築工事実施ノ件	1939(昭和14)年1月	複写	大日記・陸軍省・大日記乙輯 S14-2-30 (防衛省防衛研究所所蔵) (特定歴史公文書)
36	陸軍施設使用希望調書 昭和20年10月 文部省(一部抜粋)	1945(昭和20)年10月	複写	中央-軍事行政軍需動員-259 (防衛省防衛研究所所蔵) (特定歴史公文書)
37	位置変更について指令案(一) 帝国女子専門学校位置変更認可	1946(昭和21)年12月	複写	文部省原議書 学校位置変更認可 (国立公文書館所蔵) (特定歴史公文書)
38	学校位置変更認可申請書(帝国女子専門学校) 文部大臣宛	1946(昭和21)年11月	複写	文部省原議書 学校位置変更認可 (国立公文書館所蔵) (特定歴史公文書)
39	陸軍通信学校当時のものを使用 (相模女子大学正門)		複写	相模原市史「文化遺産編」 (軍事施設) [行政資料]
40	陸軍通信学校当時のものを使用 (高架水槽 = 右上・雨水マンホール = 左上、谷口台小学校倉庫 = 下 = 鳩の餌保管庫か)		複写	相模原市史「文化遺産編」 (軍事施設) [行政資料]
41	陸軍通信学校状況説明書	1945(昭和20)年8月	複写	「連合軍司令部の質問に対する回答 文書綴 学校 23/26」中央 終戦処理-25 (防衛省防衛研究所所蔵) (特定歴史公文書)

5 参考資料

No.	資料名	作成年	展示物
1	相模原市と米軍基地 (平成元年、渉外課)	1989(平成元)年	行政資料
2	基地白書(続基地白書・相模原の 基地)1970-1982		行政資料
3	相模原市と米軍基地	2002(平成14) 年3月	刊行物(相模原市)
4	相模原市と米軍基地	2015(平成27) 年3月	刊行物(相模原市)
5	相模原市史 第4巻	1988(昭和63) 年	刊行物(相模原市立博物館)
6	相模原市史 現代図録編	2004(平成16) 年	刊行物(相模原市立博物館)
7	相模原市史 現代資料編	2008(平成20) 年	刊行物(相模原市立博物館)
8	相模原市史 現代通史編	2011(平成23) 年	刊行物(相模原市立博物館)
9	相模原市史 現代テーマ編 ～軍都・基地そして都市化～	2014(平成26) 年	刊行物(相模原市立博物館)
10	相模原市史 文化遺産編	2015(平成27) 年	刊行物(相模原市立博物館)
11	相模原市史 近代資料編	2017(平成29) 年	刊行物(相模原市立博物館)

